

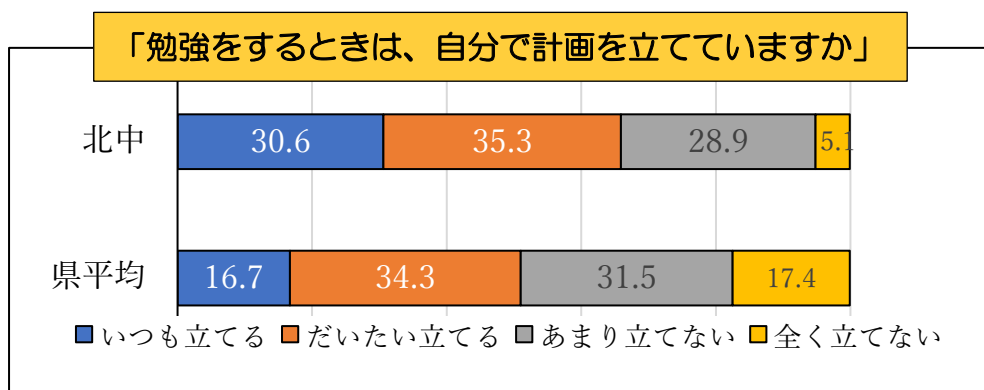


北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No40
文責 芹川博文
2月14日(金)

「やらされる自分」から「やる自分」へ ～ 自分で計画を立て見通しを持つことの効果 県学調質問紙調査より～



先日、12月に実施された県・市学力調査の結果が、各担任から一人一人に手渡されました。学校全体では、1年生は5教科中3教科が全国・県平均と同等又は上回り、2年生は全教科とも上回っていました。個人でも、平均を参考にしながら自分の状況を把握することは大切です。しかし一方で、これはあくまでも結果です。この結果をどう生かすかが問題と言えます。

上のグラフは、県学調時の質問(i-check)の一つです。この結果によると、北中生(1, 2年生)は、6割以上が計画を立てて勉強をしています。2年生は8割の生徒が、「自分で計画を立てる」と回答していました。この「自分で計画を立てる」が、一つの「カギ」だと感じます。

私自身の経験として、ただ無計画にやっている時は、「やらされている」「しかたなくやっている」感が強く、時間もかかり効果も上がりません。しかし、宿題そのものは同じでも、自分で計画を立てることで、時間的な目標や見通しが立ちます。主語が「自分」になり、「やらされる」から「やる」への転換が始まります。「終わったら〇〇をしよう」という楽しみを置くのも一つの方法かもしれません。大切なことは、「やらされる自分」でなく、「やる自分」であることです。

様々な情報や価値観があふれる時代、自分で計画を立てる習慣は大人になっても役立つことでしょう。今日という一日も、その積み重ねの人生も、「やる自分」でありたいものです。

「和」の芸術に触れる ～ 和菓子職人から「匠の技」を学ぶ 3年生最後の授業参観から ～

和菓子の美しさ、繊細さ、奥深さを堪能する時間が流れました。3年生の最後の授業参観は、ものづくりマイスターとして、地元、中原松月堂の中原様と、熊本市のさかい製餅店の酒井様をお迎えして、親子で和菓子づくり体験をしました。



中には初めてとは思えない技を発揮していた生徒もいました。「将来は就職決定ですね」と、マイスターにお褒めの言葉をいただきながら、丹念に仕上げていました。一つの体験がチャンスとなり、将来に大きな影響を与えることがあります。生徒たちの可能性の大きさを感じた時となりました。

かつて、和菓子は今以上に身近にありました。私の母は、農業(牛の肥育)の合間、季節の変わり目に、おはぎや団子を作ってくれました。祝いの席では、ようかんや落雁(らくがん)が並びました。そういえば、卒業式の日には紅白まんじゅうをもらって帰っていました。